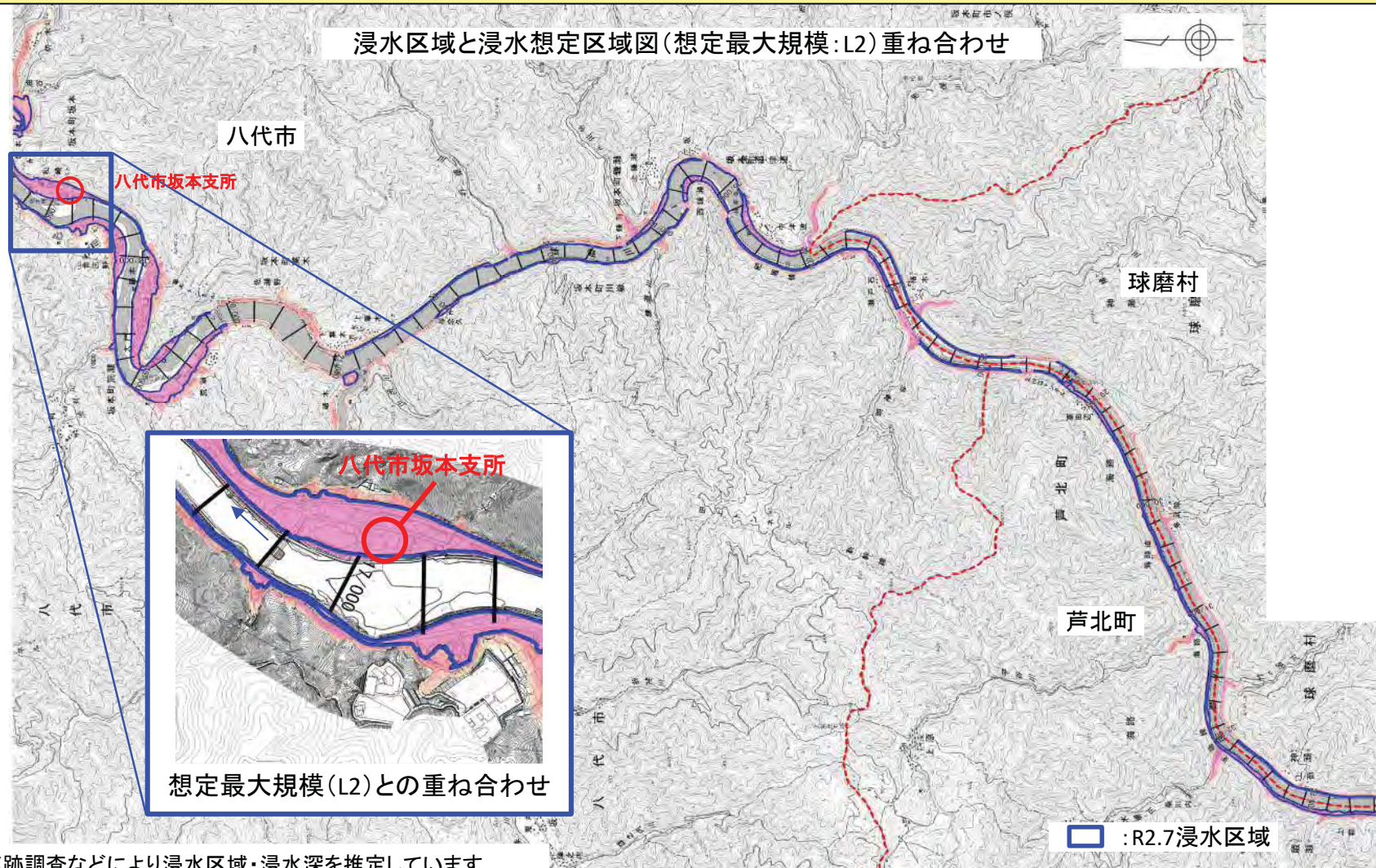


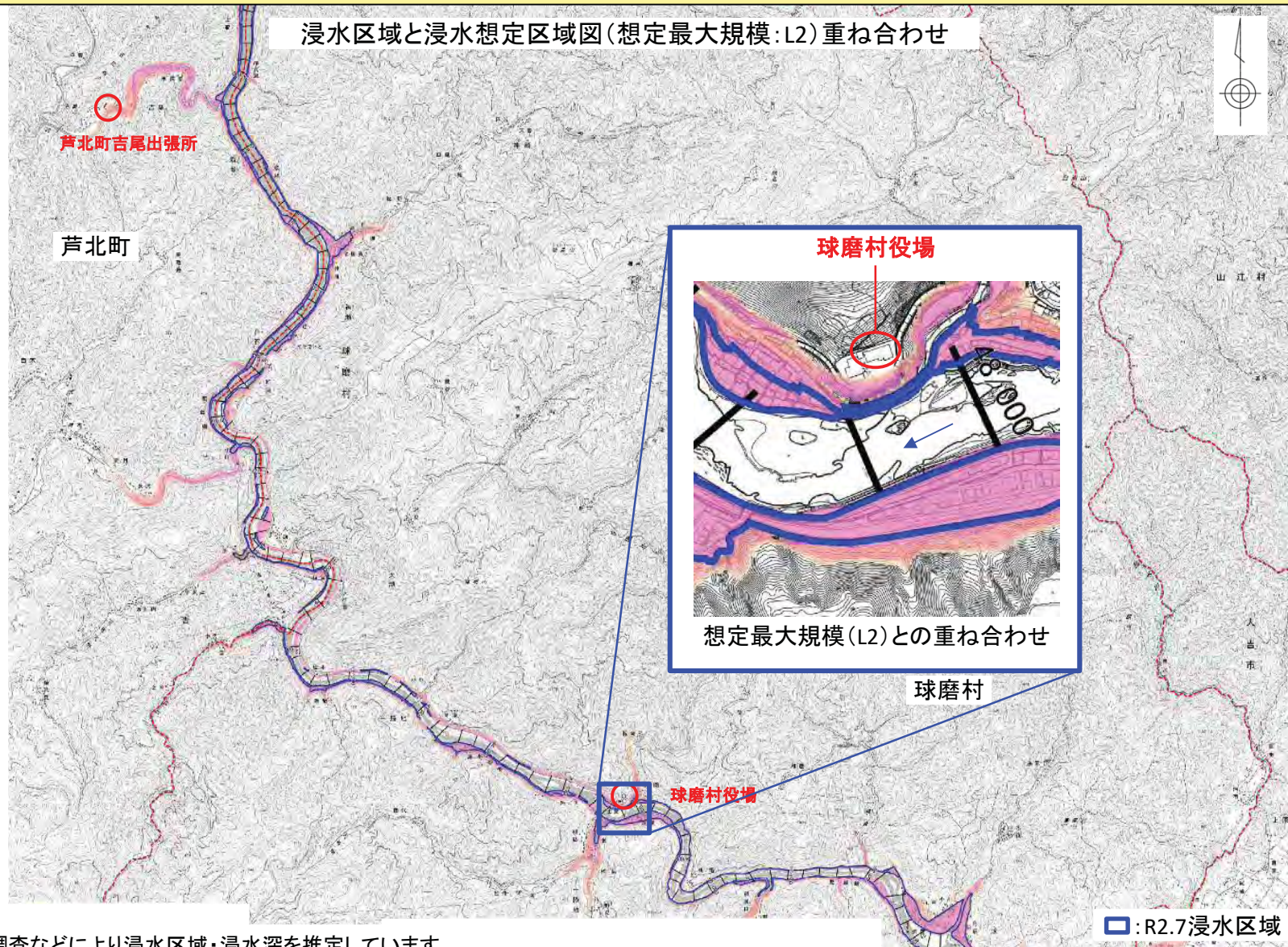
3. 浸水範圍・氾濫形態

- 下流の八代市街部では、浸水被害は発生しなかったものの、中流の山間狭窄部では、河道水位が計画高水位を超え、越水による浸水被害が発生した。
- 球磨川中流部(八代市坂本支所付近)では浸水区域は、L2(想定最大規模)の浸水想定区域と近い広がりである。



※洪水痕跡調査などにより浸水区域・浸水深を推定しています。
 ※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

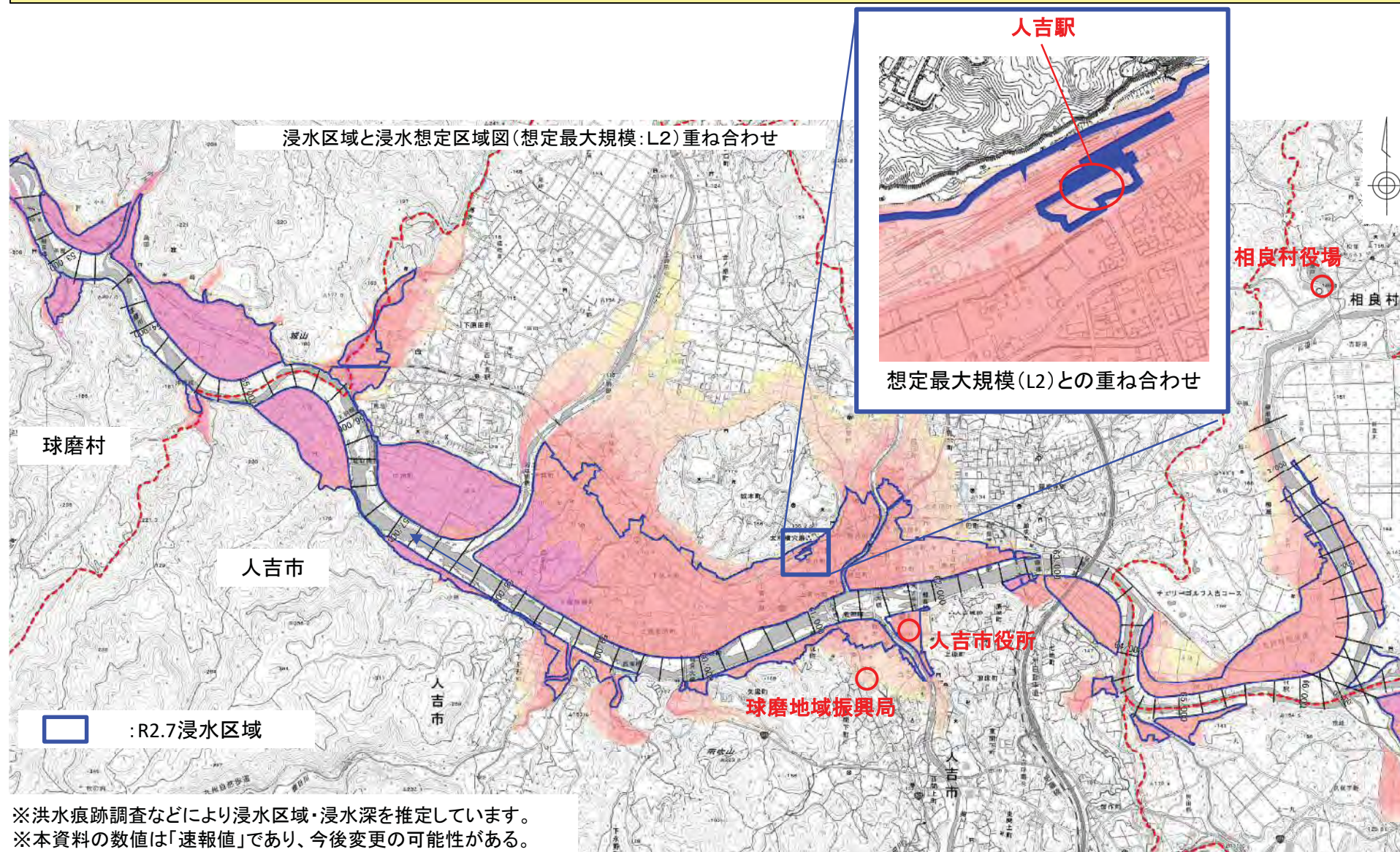
○球磨川中流部(球磨村役場付近)では、L2(想定最大規模)の浸水想定区域ほどの広がりが
ない。



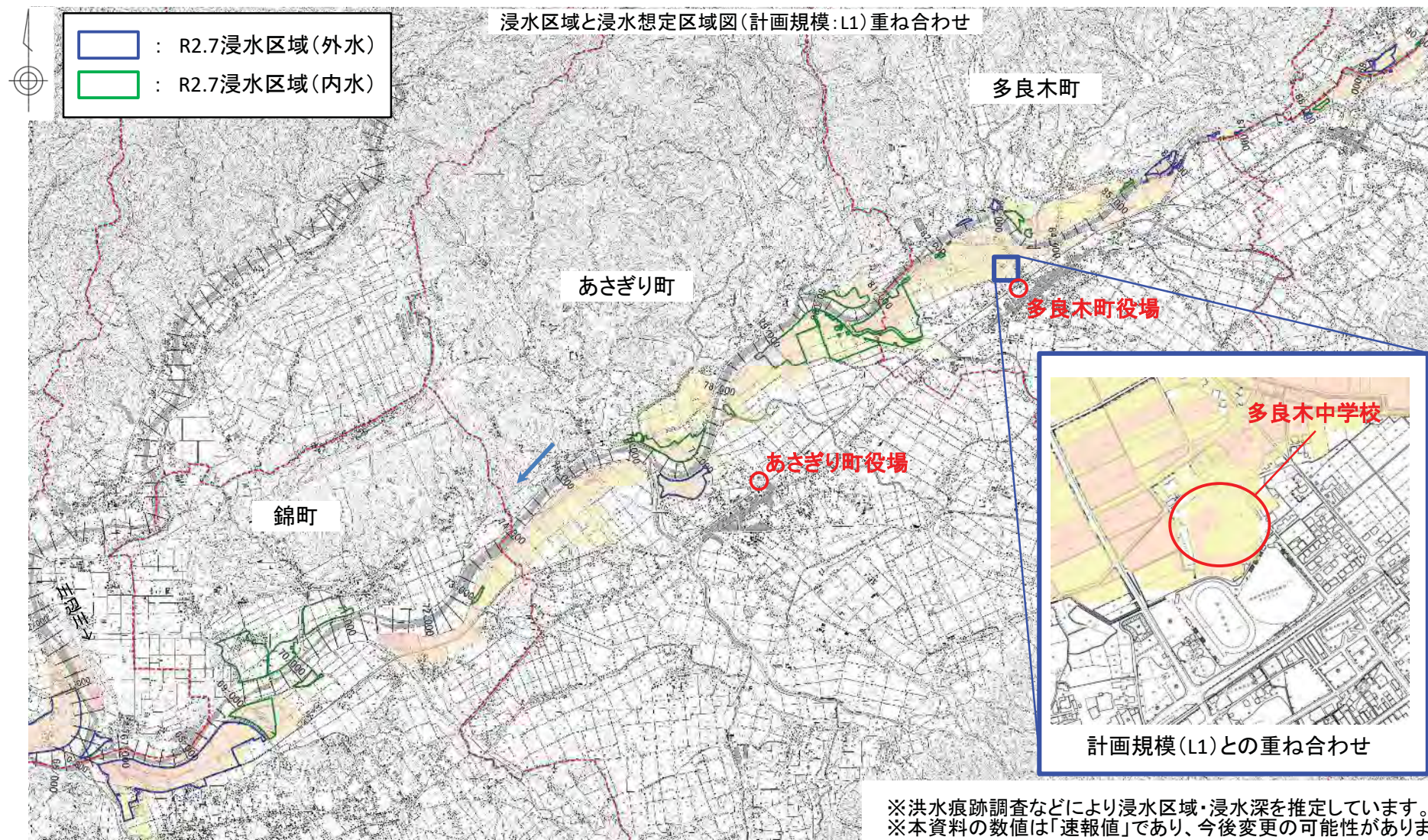
※洪水痕跡調査などにより浸水区域・浸水深を推定しています。
※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

○山間狭窄部の入口に位置する球磨村渡地区付近においては、浸水区域は概ねL2（想定最大規模）の浸水想定区域と近い広がりである。

○人吉市街部においては、L2（想定最大規模）の浸水想定区域ほどの広がりが無い。

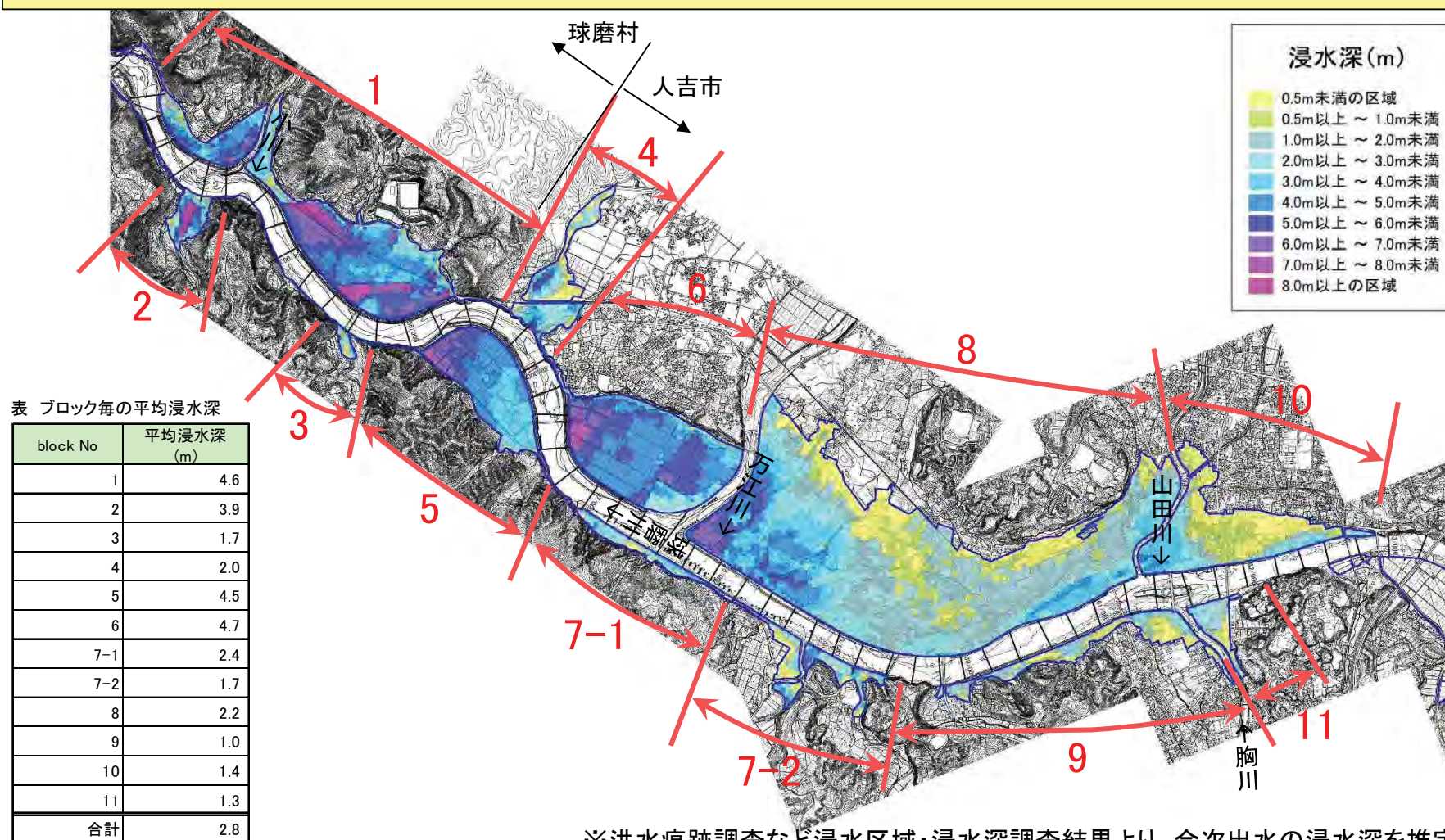


○川辺川合流点より上流の本川区間においては、川辺川合流点付近ではL1(計画規模)の浸水想定区域に近い広がりで浸水が発生しているが、ほとんどの区間はL1(計画規模)の浸水想定区域よりも狭い広がりとなっている。



○山間狭窄部の入口に位置する球磨村渡地区付近から万江川の合流部までの区間は、平均水深が2～5mと深くなっている。

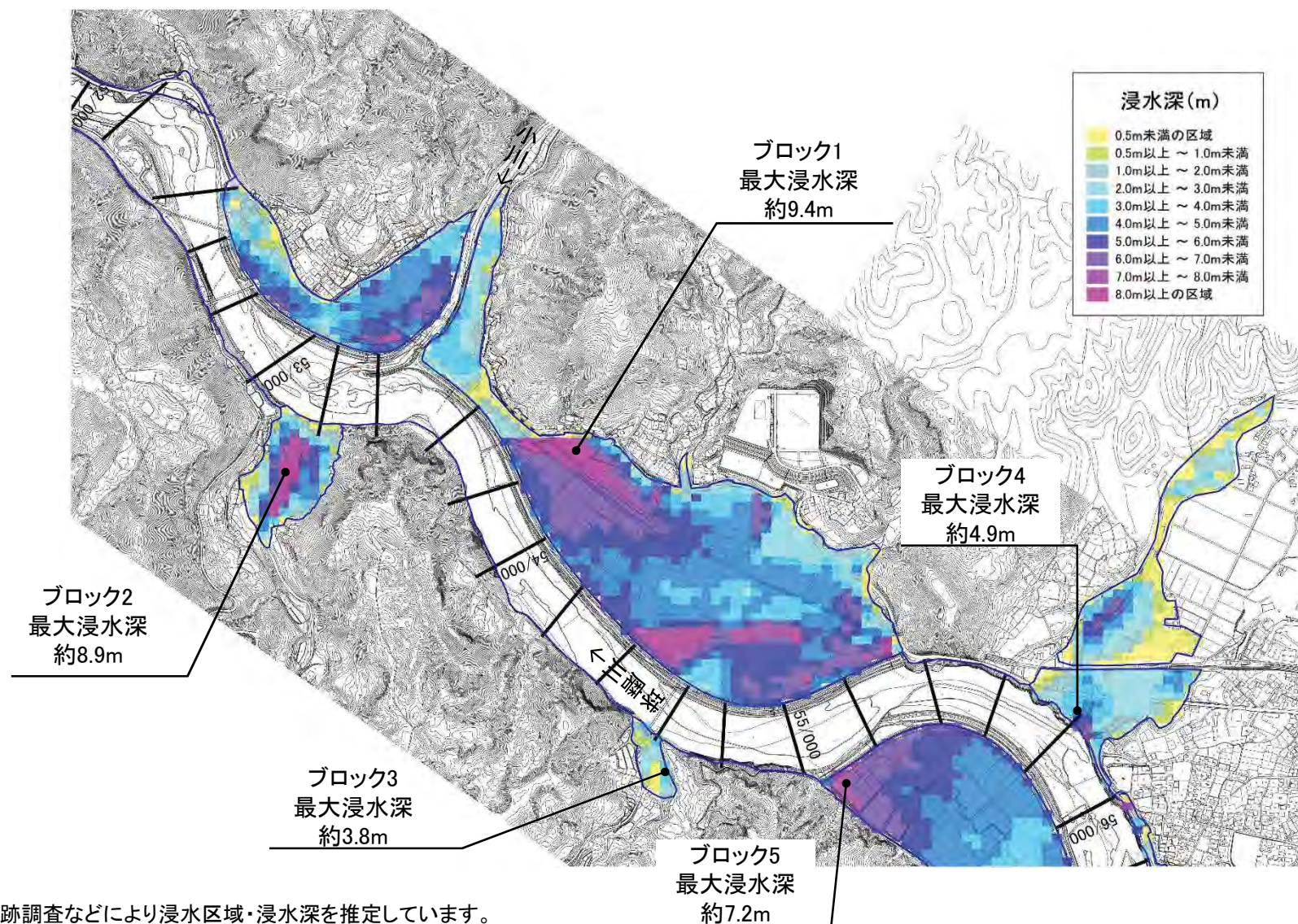
○万江川合流点から上流の人吉市街部は1～2m程度の平均浸水深となっているが、万江川合流部や山田川合流部及び球磨川沿いの浸水深が大きくなっている。



※洪水痕跡調査など浸水区域・浸水深調査結果より、今次出水の浸水深を推定。

※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

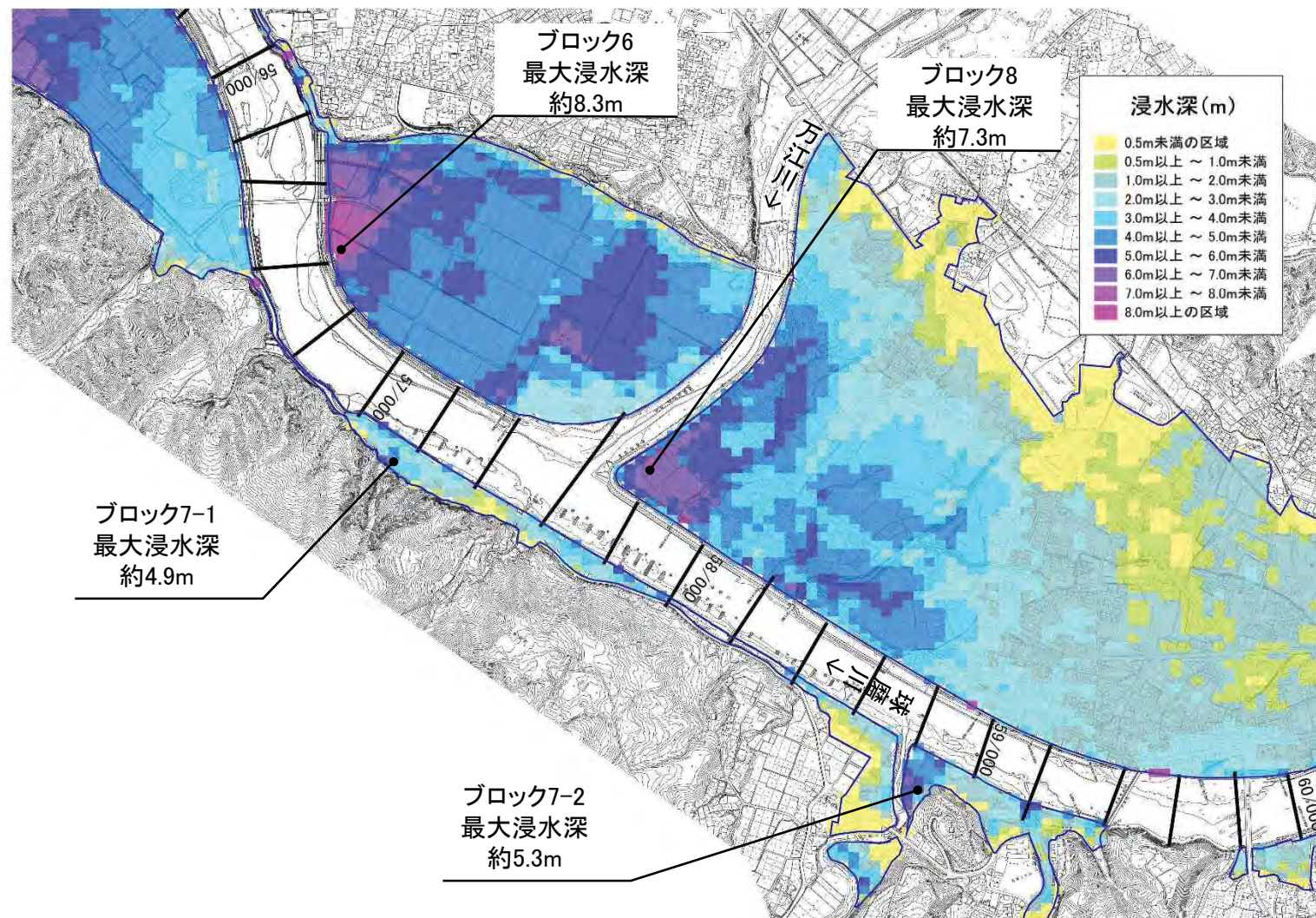
○球磨村渡地区では、概ね3m以上の浸水深となっており、深いところは最大浸水深が8mを超える範囲も確認されている。



※洪水痕跡調査などにより浸水区域・浸水深を推定しています。
※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

○万江川の合流点付近も浸水深が7mを超えている。

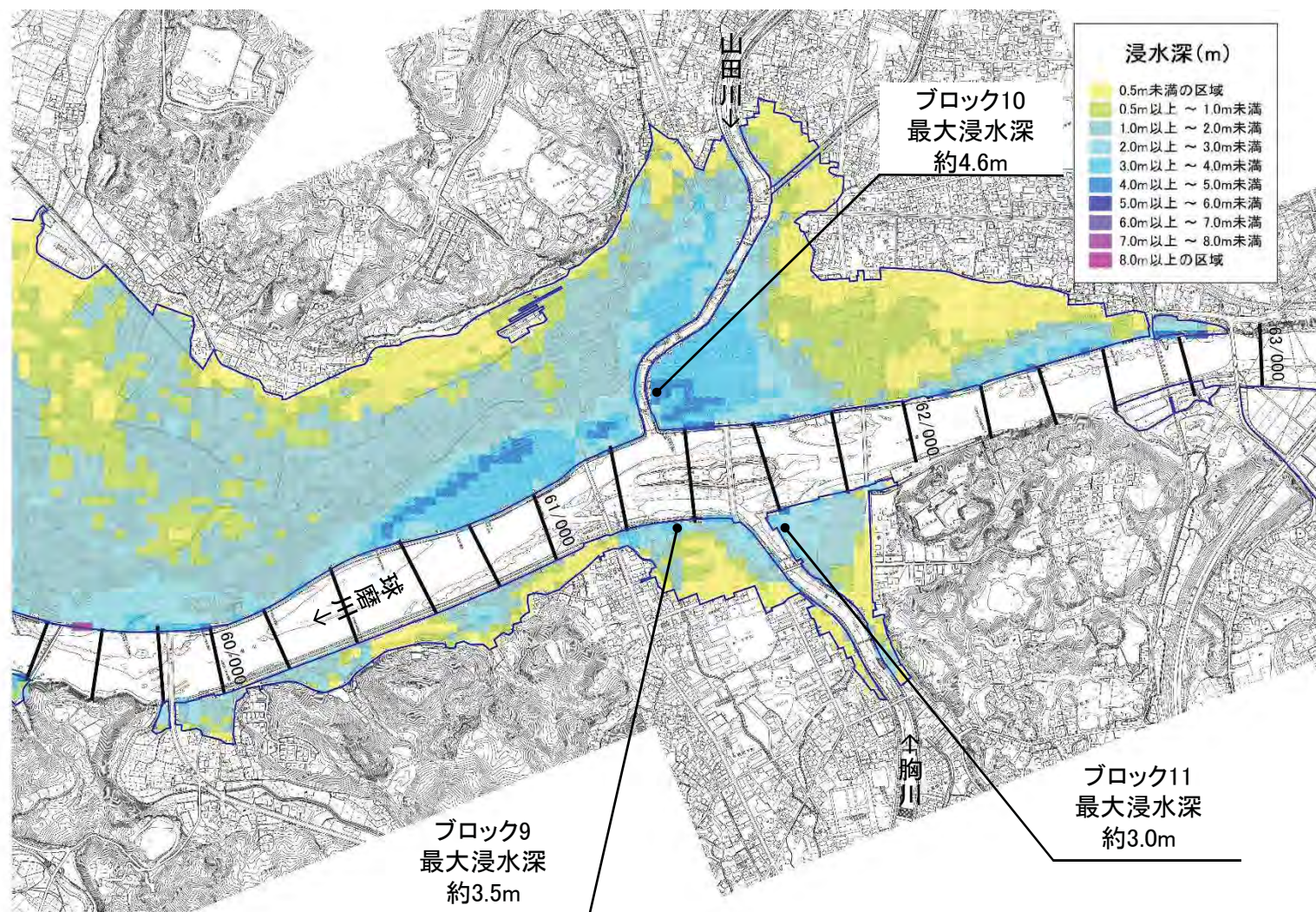
○市街部の58k800付近から下流は浸水深が大きくなっている。



※洪水痕跡調査などにより浸水区域・浸水深を推定しています。

※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

○人吉市街部の河川水位は、堤防天端を2m程度越えるような状態で流下しており、堤防沿いや山田川の合流付近の浸水深は3m～5mの浸水深となっている。また、市街部の平均浸水深は1m～2m程度となっている。

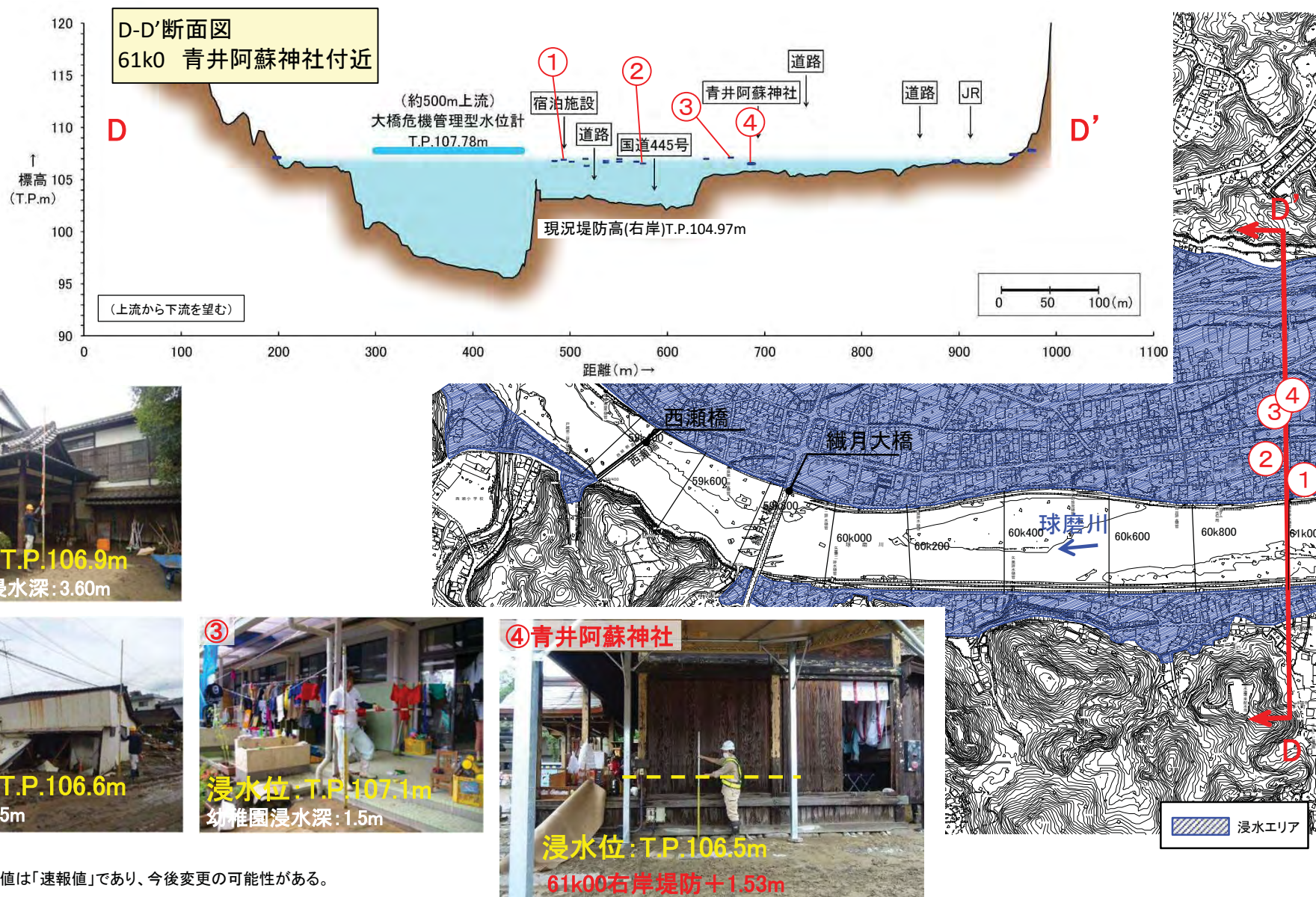


※洪水痕跡調査などにより浸水区域・浸水深を推定しています。
※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

3. 浸水範囲・氾濫形態(浸水の状況: 青井阿蘇神社付近)

47

○青井阿蘇神社の洪水痕跡T.P.106.5mや周辺の痕跡調査結果等より、河口より61km付近でも堤防天端を1.5m程度越える水位となっていたと推測される。

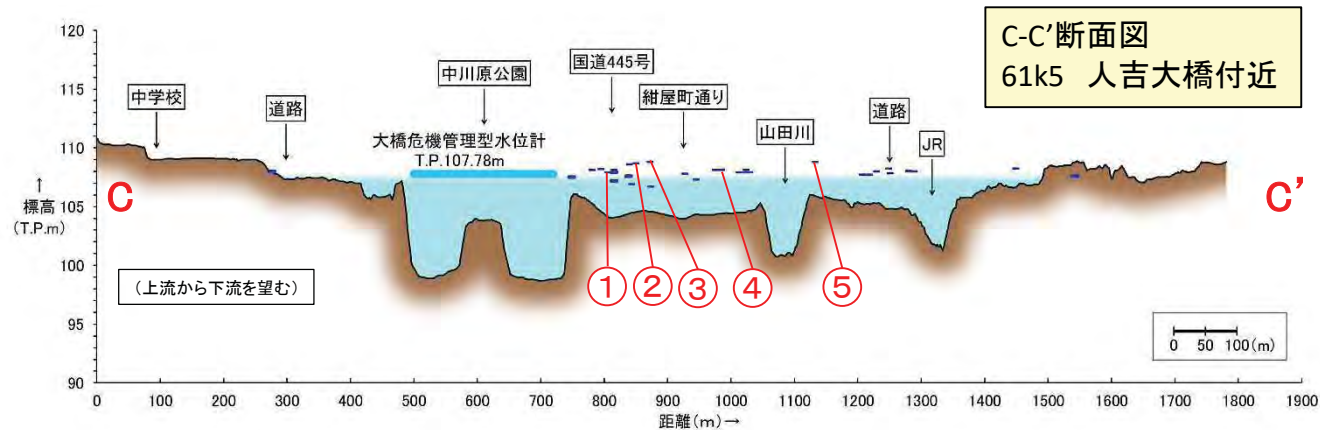


※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

3. 浸水範囲・氾濫形態(浸水の状況:人吉大橋付近)

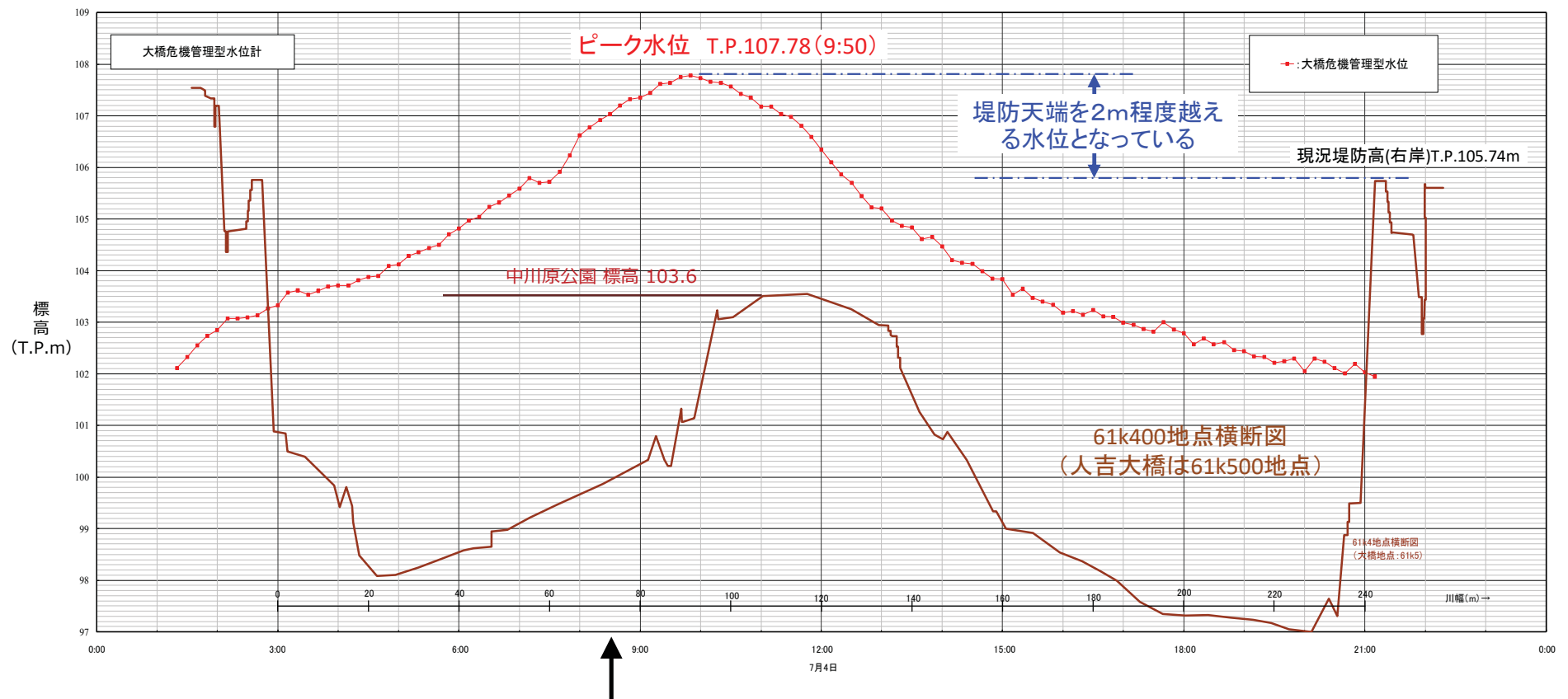
48

○人吉大橋の危機管理型水位計で観測されたピーク水位はT.P.107.78mであるが、市街部の浸水深調査においても同程度の水位が確認されている。



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

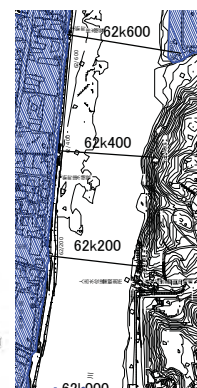
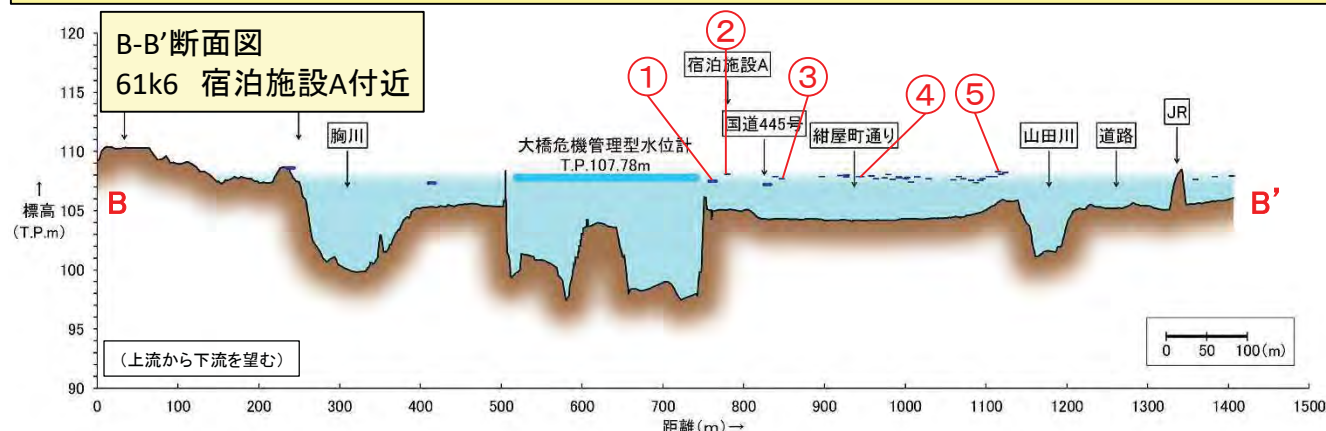
- 人吉水位観測所の下流約700mに位置する人吉大橋に平成31年1月に設置した洪水時のみ水位観測を行う危機管理型水位計は、ピーク水位T.P.107.78mを観測した。
- 人吉大橋付近では、右岸堤防を2m程度越える水位となっていた。



3. 浸水範囲・氾濫形態(浸水の状況:「宿泊施設A」付近)

50

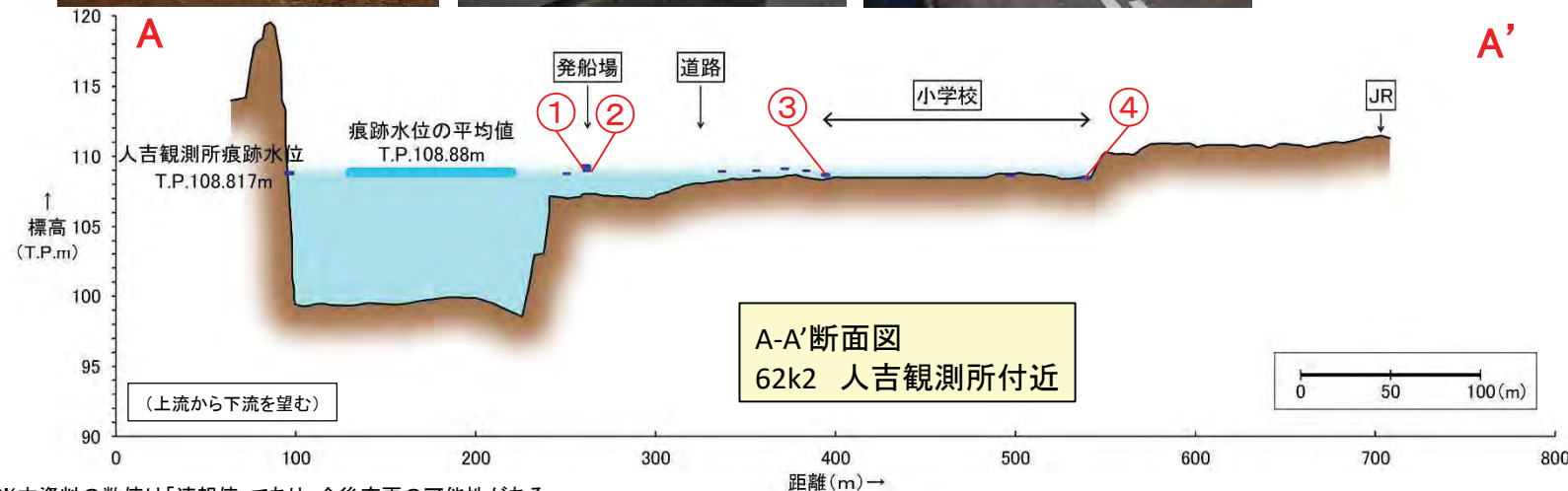
- 洪水痕跡等により人吉市街部においては堤防を大きく越える水位となっており、人吉大橋の上流の宿泊施設A付近では、堤防天端を2m程度超える水位が確認されている。
- 洪水痕跡調査の結果から、市街部における洪水ピーク時の水位は、球磨川本川の水位と同程度の水位となっていたと推測される。



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

○人吉水位観測所周辺の洪水痕跡は、概ねT.P.109m前後となっており、球磨川本川の水位と同程度の水位となっていたと推測される。

○痕跡水位は、堤防天端を概ね1～2m程度超える水位となっている。



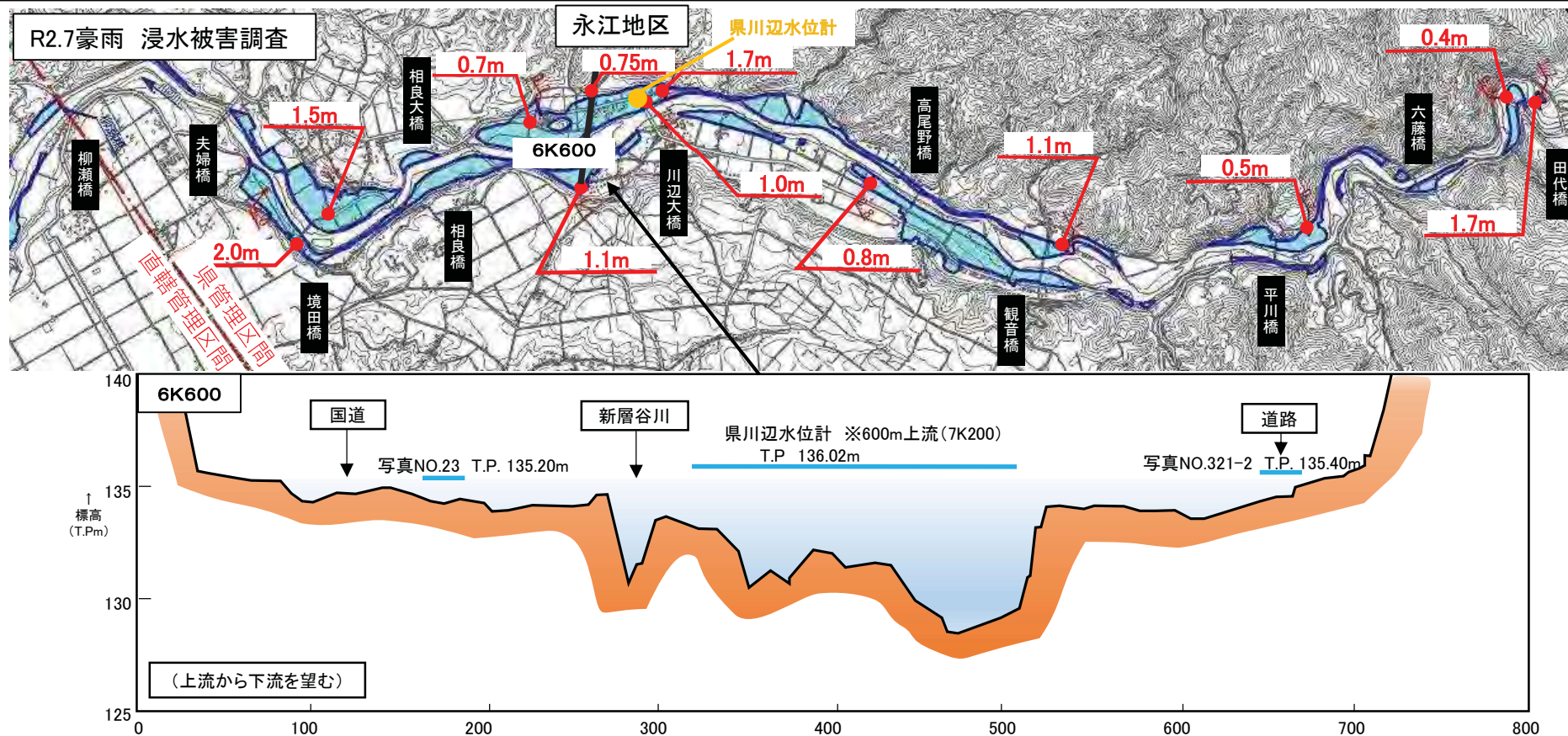
※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

3. 浸水範囲・氾濫形態(熊本県管理区間の川辺川(永江地区横断面図と痕跡水位))

52

○永江地区(6k600)の観測水位※と左右岸の痕跡水位が概ね一致した。

※観測水位については、県川辺観測所の水位を使用



※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

